

# 教育研究業績書

2018年11月21日

所属：生活環境学科

資格：准教授

氏名：井上 雅人

研究分野	研究内容のキーワード
デザイン史、デザイン論、ファッション史、ファッション論、物質生活史	近代、日本、ファッション、デザイン、物質生活
学位	最終学歴
修士（社会学）、学士（文学）	東京大学大学院 人文社会系研究科 社会文化研究専攻 博士後期課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 生活デザイン・文化に関する情報交換会	2016年4月1日	生活環境学科生活デザインコースのカリキュラム整理
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 生活環境学科担任代表	2017年4月1日	
2. 生活造形学科担任代表	2015年4月1日2017年3月31日	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 専門社会調査士	2010年10月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 附属ミュージアム準備室運営委員	2016年4月1日	
2. 共通教育委員	2014年4月1日2017年3月31日	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 洋裁文化と日本のファッション	単	2017年06月19日	青弓社	女性たちが自分の洋服を自らの手で作る技術を中心とした洋裁文化。1940年代後半から60年代半ばまでの間に一気に形成され、そして消滅したその実態を、デザイナー、ミシン、洋裁学校、スタイルブック、洋裁店、ファッションショーなどの事例から立体的に描き出す。
2. デザインの瞬間	共	2003年06月	角川書店	責任編集。人はなぜものをつくるのか？ 空間演出の先駆者にスポットを当て、ものづくりのプロセスを紐解く。多分野の空間演出の先駆者の紹介も収載。ものづくりの本質を見極め、本来あるべき正しい道を探る。
3. 洋服と日本人 国民服というモード	単	2001年10月1日	廣済堂出版	日本人に洋服=近代産業社会的な身体をもたらしていったのは、国民服、標準服、もんべとといった軍国主義の産物であった。総動員体制下における着ることの自由と不自由を指し示す。
<b>2 学位論文</b>				
1. 「モード以前の事：国民服と標準服のデザイン決定及び普及活動に見られる衣服のメディア性とコミュニケーション状況」	単	2000年03月	東京大学大学院	修士論文。日本人が近代産業社会的な身体を獲得する葛藤の中で、洋服という具体化された物とどのように格闘してきたかを、メディア論、ファッション論、記号論などの視点から明らかにした。
<b>3 学術論文</b>				
1. ファッションと人間解放の神話 自由な身体に閉じ込められた自我と、その表出	単	2018年10月25日	西山哲郎、谷本奈徳編『身体化するメディア／メディア化する身体』風塵社	ファッションについて考えることは、流行によって衣服が移り変わっていくメカニズムを考えることだが、それを違った言葉で言い表すと、身体と人工物の関係の変遷について考えることである。衣服は、社会が呈示する身体、つまり、社会が考える「人間のあるべき姿」の具体的な形である。ファッションは差別の体系である一方で、喜びでもある。それは、着るという簡単な行為によって、差別を転覆し、自分や人類全体の可能性を切り開く瞬間に立ち会う

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
2. スタイル画は何の技術か 長沢節とセツ・モードセミナー	単	2017年04月01日	『Fashion Talks...』vol.5 京都服飾文化研究財団	<p>ことができるからだ。</p> <p>長沢節は、「スタイル画」の名の下に、デザイン画、ファッション・ポートレート、イラスト、挿絵、美人画、風俗画、グラフィック・デザイン、マンガ、ファッション・イラストレーションなどを統合しようとした。しかし、それらはその後、各分野に再び離散し、解体され、実態を失っていった。長沢の持っていた可能性とは何か。</p>
3. 戦中戦後の女性雑誌における化粧を語る言葉	単	2016年11月15日	『マキエ No.36』ポーラ文化研究所	<p>日本において化粧品は、戦後の民主主義とともにやって来たわけではない。戦前から大手の化粧品会社は存在し、戦中を通して、広告を行なって来た。また、化粧品に対しての論評や批判も存在し続けた。戦争を挟んで、何が変わり、何が変わらなかったのか。</p>
4. 衣冠束帯 スーツ 工人服 軍服 四つの身体を統合する試みとしての国民服	単	2013年10月	『日本の男服 メンズ・ファッションの源泉』神戸ファッション美術館	<p>国民服は、20世紀の人間がいくつもの身体を持っていたことを教えてくれる。そして社会には、いくつもの身体を統合しようとする脈動が絶えずあることも教えてくれる。国民服は20世紀における例外的な衣服として扱われがちだが、国民服以前の歴史も、国民服以降の歴史も、国民服と同様の、身体の統合と失敗の試行錯誤の歴史としてあることに変わりはない。国民服以降の衣服の革新的な変化も、身体のどのような区分の統合を試み、成功もしくは失敗したのか、という観点で見直さなければならぬだろう。</p>
5. コム・デ・ギャルソン論争とアンアン革命 一畑谷雄高と吉本隆明の論争にみる、プレタポルテへのまなざしの変化	単	2013年09月	『京都精華大学紀要』43号 京都精華大学	<p>『アンアン』の1984年9月21日号に、「現代思想界をリードする吉本隆明の「ファッション」という文章が、見開きで掲載された。この文章が有名なのは、これが掲載された後に、吉本隆明と畑谷雄高の間に「コム・デ・ギャルソン論争」と呼ばれる一連のやりとりがあったからだ。85年に起きたこの論争は、まさに女性が洋服を作ることから買うことになった30年間の終わりに起きた、象徴的な事件でもあるのだ。</p>
6. 国民服 境界なき空間のユニバーサルな身体	単	2013年04月	『DRESSSTUDY』63号 京都服飾研究財団	<p>国民服、正しくは「大日本国民服」は、軍部によって国民が無理矢理に着せられた簡易版の軍服のように思われている。実際に公募が出されたときには簡易軍服としての役割を期待され、戦局が進展するにつれ簡易軍服として着用されたのも事実である。しかし、近代における身体を考えると、国民服をそれだけの存在と片付けてしまうわけにもいかない。国民服は、東洋の片隅で作られた、あまりにみすぼらしい服ではあったが、近代化と伝統社会との葛藤を抱えた社会における非常時の衣服であったからこそ、近代において人間の身体がどう扱われているかを露わにした。</p>
7. 造形は衣服と建築から成っている 今和次郎の服装論	単	2013年01月	『今和次郎と考現学』河出書房新社	<p>今和次郎は、衣服と建築という二つの造形の極の間で、人々が戸惑いつつも行動し創造する様を観察することによって、変化していく社会をつかみ、同時に、より良くしていこうとした。その意味では、考現学から生活学に至るまで、その立ち位置は全く変わっていないと言える。</p>
8. 自由・平等・コム デ ギャルソン——コム デ ギャルソンと制服の思想	単	2012年12月	『相対性コム デ ギャルソン論』フィルムアート社	<p>コム・デ・ギャルソンは、ヒッピーやフォークロア調を代表とするような70年代の多様に彩られた空気の中なかで、紺や黒を基調とした禁欲的な服をつくるブランドとして認知されつつ登場した。「制服のようだ」とも評されたコム・デ・ギャルソンの服は、デザインとしては確かに「平等」の服であるが、しかし他とは違う服を着ていこうという主張を持った「自由」の服であった。「自由」と「平等」のせめぎ合いを考えるに、これほど相応しいブランドもないだろう。</p>
9. 移動する身体	単	2012年10月	『生活の美学を探る』光生館	<p>「服従させられ訓練される」身体と「自由に動かせる」身体を、ひとつの身体の中に平然と同居させてしまったのが近代である。そして、こういった、従順でありながら自由に動かせる新しい身体に「メディア」を次々と繋ぎ、拡張していったのも近代であった。</p>
10. 80年代をどう捉えるか	単	2012年02月	『Fashionista』1号	<p>イッセイミヤケ、ヨウジヤマモト、コムデギャルソンのいわゆる「御三家」が80年代の「DCブランドブーム」とともに日本中を席卷しただけではなく、パリ・コレクションを通して世界中に多大な影響を与えていった、という決して間違いとはいえない物語が完成している。80年代の日本人デザイナーたちによる、いわゆる「黒の衝撃」についての言説は、様々な場所で目にする事が出来る。だが、こういった記述は、「コロンブスのアメリカ大陸新発見」式な記述とたいして変わらないとも言える。日本のフ</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
11. プロダクトデザインに倫理はあるか	単	2011年11月	『生活をデザインする』光生館	アクション・デザイナーたちは、パリにとっては衝撃的な新参者であっても、日本の社会においてもそうであったとは限らない。
12. ファッションデザインを歴史的に考える	単	2011年10月	『生活をデザインする』光生館	
13. 終着としての世界デザイン会議	単	2011年07月	『デザイン史学』9号 デザイン史研究会	
14. 洋裁文化の構造——戦後期日本のファッションと、その場・行為者・メディア (2) (査読付)	単	2011年	『京都精華大学紀要』38号 京都精華大学	
15. 洋裁文化の構造——戦後期日本のファッションと、その場・行為者・メディア (1) (査読付)	単	2010年	『京都精華大学紀要』37号 京都精華大学	The author thinks about "Dressmaking culture (Yo-sai Bunka)" by using "champ" that Pierre Bourdieu defined. Moreover, the author thinks what relation "agents" had, and clarifies structure of the society. In addition, the author uses the concept of Marshall McLuhan's "Media". In "Dressmaking culture", important media are "Discourse media", "Space media", and "Body media". "Discourse media" is magazines such as "Stylebooks". "Space media" is a fashion show, a dressmaker's shop, and department stores. "Body media" is a sewing machine and the dressmaking schools.
16. 昭和三〇年代におけるファッションとテレビCM	単	2010年	『テレビ・コマースの考古学』世界思想社	The author calls the phenomenon that relates to dressmaking from the 1940's to the 60's "Dressmaking culture (Yo-sai Bunka)". Up to now, it has not been described enough, though it is a very unique "subculture". 昭和三〇年代のファッションに関するテレビCMは、「洋裁文化」という場における視聴者＝消費者や、他のメディアとの特有な関係を背景にして、固有の語りの型として練り上げられていった。昭和三〇年代においてテレビCMは、広告手法として頂点に位置したわけでもなく、時代を経るに従って表現手法を単純に単線的に高度化させていったわけでもなく、むしろ、他のメディアとの関係性のなかで試行錯誤を繰り返して、社会の変容に合わせて変質していった。
17. 日本における「ファッション誌」生成の歴史化	単	2010年	『都市文化研究』12号 大阪市立大学	関西一円の「洋裁店」を対象とした調査を実施し、洋裁関係者が、関西のファッション文化の形成に對しどのようなかたちで関わって来たのかの一端を明らかにすることを試みた。 インターネットタウンページ ( <a href="http://itp.ne.jp/">http://itp.ne.jp/</a> )の大阪府、京都府、奈良県、兵庫県、和歌山県、滋賀県に掲載された「洋裁店」に調査票を郵送した。対象店舗数287店舗、有効回収数97票であった。
18. 2007年 関西の洋裁店・洋装店に関する調査研究	単	2009年	『関西文化研究叢書11 関西における洋裁文化形成に関する研究』武庫川女子大学	
19. 「メディア論」の身体論的問題構制——マクラーハンとマンフォードにおける身体・機械・メディアを中心に	単	2007年	『京都精華大学紀要』33号 京都精華大学	和服を消費社会のなかの商品として捉えた時にどのような論点が浮かび上がってくるかを、「演技」「まなざし」「技術」などの視点や、身体との関わり、流行という観点から考察した。
20. 隆盛期の藤川学園と洋裁文化	単	2005年12月	『関西文化研究』4号 武庫川女子大学	衣服におけるメディア性の二つの位相、衣服自体におけるメディア性、マスメディアにおける情報としての衣服について考察した。
21. 近代化と民族化——明治時代における和服の近代化をめぐるファッション論	単	2004年	『民族芸術』20号 民族芸術学会	広告／芸術／報道の垣根はどこにあるのか。ベネトンというアパレル企業の広告戦略を担当したオリヴィエーロ・トスカニーニの例を見ながら、マスメディア／企業／個人におけるメッセージについて考察した。
22. 衣服のコミュニケーション	単	2003年	『モードと身体——ファッション文化の歴史と現在』角川書店	国民服、標準服などを文化政策として捉え直し、それが編み出されるまでの文化的葛藤や矛盾を、デザイナーである斎藤佳三の著作を中心に分析することによって検討した。
23. ベネトンの広告写真家	単	2003年	『現代写真のリアリティ』角川書店	「ファッション」という言葉をめぐって様々な記述がなされてきたが、言葉に対する定義の不確定性から歴史認識も定まらず、言説は混乱している。ファッションをどのように記述していけば良いかを提言
24. 総動員体制下の衣服政策と風俗	単	2003年	『衣と風俗の一〇〇年』ドメス出版	
25. ファッションの歴史記述の諸相	単	2002年	『デザイン学研究』9巻4号 デザイン学会	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
				した。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 日本人と衣服の歴史	単	2016年08月29日	応用哲学会サマースクール2016 「ファッション批評の最前線：fashion meets philosophy」 1/8bldg. 4F イベントスペース Ipe	応用哲学会主催レクチャー 8月29日(月) - 8月30日(火) 13:00-18:00
2. 服飾文化研究における資料の問題	共	2006年03月	武庫川女子大学 日本家政学会服飾史・服飾美学研究部会	登壇者：井上章一、井上雅人
3. 「衣と風俗の一〇〇年」	共	2004年10月	日本生活学会 公開シンポジウム「衣と風俗の一〇〇年」	
4. 「戦後50年間の服飾文化および服飾デザインに関する概説書 — 服飾文化および服飾デザイン教育の見直しのために—」	共	2003年11月16日	武庫川女子大学中央キャンパス 第45回意匠学会大会シンポジウム	司会：横川 公子（武庫川女子大学） パネラー：青木 美保子（京都工芸繊維大学大学院）、井上 雅人（京都造形芸術大学）、森 理恵（京都府立大学）、平光 睦子（大阪大学）
<b>2. 学会発表</b>				
1. 『考現学の教科書』を考える	共	2011年05月15日	日本生活学会 第38回研究発表大会 早稲田大学	佐藤健二（東京大）・中谷礼仁（早大）・祐成保志（信州大）・石川初（ランドスケープデザイン）・井上雅人（武庫川女子大）
2. 「ジャパニーズ・ファッション」のはじまり	単	2011年03月27日	大正イマジュリイ学会 第9回全国大会	
3. 今和次郎の服装研究 着るを視るまなざし	単	2010年05月08日	日本生活学会 第37回研究発表大会	シンポジウム「異装の考現学」
<b>3. 総説</b>				
1. アイデンティティ・フード	単	2018年08月01日	『vesta』No. 111 味の素食の文化センター	現代の社会に生きる者は誰であれ、自分らしくいることと、物とつきあうことの両方を、うまくやっていかなくてはならない。その二つが交差するのが、「ファッション」だが、最近では、アイデンティティを作り出したり確認するために、服だけでなく、食も大きな役割を担っている。アイデンティティと食の関係は、どのような形が望ましいのか、議論すべき時期に差し掛かっている。
2. 布の消滅	単	2017年04月07日	『最新 現代デザイン事典』平凡社	2010年『デザイン事典』の改訂版
3. ファッションの調査でも、まず、人の話をよく聴く	単	2017年03月25日	『日本生活学会 フィールドワークシリーズ 003：さまざまな方法』日本生活学会	物をよく見ることと、人の話をよく聞くことは、調査どうこう以前に、世界との関わりの第一歩として、どのような場合にも大事なことである。
4. 日本の洋裁文化と民主主義	単	2016年08月01日	「α シノドス vol. 201」株式会社シノドス	
5. 服の声を聴く	単	2016年05月01日	『文鯨』2016春号 『文鯨』編集部	
6. 『ミシンと衣服の経済史』書評	単	2015年09月01日	日本歴史学会『日本歴史』9月号 吉川弘文館	岩本真一『ミシンと衣服の経済史 地球規模経済と家内生産』の書評。
7. あした着る機能	単	2015年03月01日	『CEL』109号 大阪ガス	
8. 手づくりから既製服へ	単	2014年12月25日	『民俗学事典』丸善	
9. 「第三期デザイナー」までの理論とデザイン	単	2014年09月10日	『視る』471号 京都国立近代美術館	
10. 人生を彩る技術	単	2014年03月	『婦人之友』婦人之友社	
11. 中原淳一と少女たちのメディア少女雑誌からファッション誌へ	単	2013年11月	『ユリイカ』45巻16号 青土社	
12. 座談会) ミシンが語る母たちの近代史	共	2013年10月	『婦人之友』婦人之友社	アンドルー・ゴードン、井上雅人、田部小枝子
13. 西宮船坂ビエンナーレ2012「竹林」について	共	2013年09月	『生活環境学研究』1号 武庫川女子大学	森本真と共著
14. 神戸ファッション美術館	単	2013年03月	『ポピュラー文化ミュージアム』ミネルヴァ書房	
15. 植田正治写真美術館	単	2013年03月	『ポピュラー文化ミュージアム』ミネルヴァ書房	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3. 総説</b>				
16. 手芸と自家裁縫 趣味と生産のあいだ	単	2011年11月	『生活文化玉手箱シリーズ2共感の ちから無名のちから 明治・大正・昭和を生きた人々の手芸品』武庫川女子大学資料館	
17. 日本の文字とグラフィックデザイン	単	2010年10月	『生活文化玉手箱シリーズ1キモノの文字文様に託された世界』武庫川女子大学資料館	
18. 1940/50年代と消費者の身体 洋裁文化の事例を中心に	単	2009年7月	『ポピュラーカルチャー研究 Vol.2 No.4』京都精華大学	
19. ロンドン万国博覧会	単	2009年4月	『デザインの現場』美術出版社	
20. 「洋裁映画」にみる「デザイナー」の表象	単	2008年3月	『東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成』武庫川女子大学	
21. インダストリアルデザインからみたテレビCM	単	2008年	『テレビCM研究 Vol.2 No.3』京都精華大学	
22. 洋裁文化からみたテレビCM	単	2008年	『テレビCM研究 Vol.2 No.1』京都精華大学	
23. カタログ概史 コメニウスからインターネットまで	単	2007年	『ポピュラーカルチャー研究 1巻2号』京都精華大学	
24. ファッションデザイン	単	2006年	『近代デザイン史』武蔵野美術大学	現在我々が着ているものは何かという問題意識から出発し、西洋服飾史や、日本風俗史でも、洋装化史でもない衣服の「デザイン」の歴史を記述した。
25. ファッション文化	単	2004年03月	『社会情報学ハンドブック』東京大学出版会	ファッションにおけるメディアの二つの位相、メディアのなかの衣服と、メディアとしての衣服について検討した。
26. コンシューマ＝デザイナーの発現 消費活動化するデザイン	単	2004年	『デザインニュース(266)』日本産業デザイン振興会	
27. スポーツウェア	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
28. Tシャツ／ジーンズ	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
29. プレタポルテ	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
30. A-poc	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
31. 再生衣料	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
32. ピアシング／タトゥー	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
33. 純粋デザインとしての存在が示すもの	単	2000年11月	『スタジオ・ボイス』299インファス	ウェブ上で展開されるヴァーチャルプロダクツについて、具体例を紹介しつつ、その限界と可能性を考察した。
34. デザイナーが造形する滑らかな身体、所有への渴望	単	2000年11月	『スタジオ・ボイス』299インファス	プラスチックによる有機的な曲線が人体と融合する時、それはむしろ活動を疎外する無機物として立ちあらわれる。プラスチックと人体を接合しようと試みたデザイナーやアーティストを紹介しつつ、われわれの身体の未来について考察した。
35. ファッション界を読み解くキーパーソン	単	2000年10月	『スタジオ・ボイス』298インファス	2000年のパリコレクションを総括しつつ、そこにあらわれる身体感や、産業構造の変化を紹介した。
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
1. 竹林	共	2012年10月	西宮船坂ビエンナーレ2012	「井上雅人研究室 + 森本真研究室」名義
2. stilllife 2.2	共	2011年8月	大阪市立図書館	「井上雅人 + CENTER EAST」名義
3. stilllife 3	共	2010年10月	「井上雅人 + CENTER EAST」展 京都造形芸術大学ギャラリーRAKU	「井上雅人 + CENTER EAST」名義
4. stilllife 2	共	2010年10月	「井上雅人 + CENTER EAST」展 京都造形芸術大学ギャラリーRAKU	「井上雅人 + CENTER EAST」名義

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
5. stilllife 1	共	2010年05月	R EAST」展 京都造形 芸術大学ギャラリーRAK U 「京展」 京都市立美 術館	「井上雅人 + CENTER EAST」名義。「京展」入選 。
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. IGSセミナー（東アジアにおける ジェンダーと政治②）「近代日 本のファッション文化を再考する ：女性・近代化・対抗文化」	単	2018年6月26 日	お茶の水女子大学ジェ ンダー研究所	男性、工業化、政治、有名性を中心に語られて来た 歴史において、生活の中で、女性たちがいかんして 対抗文化をひっそりと育んだか、洋裁を通じた女性 の主体的な文化形成、工業化や生活技術の外部化以 外の近代化の道、戦争を挟んで変化したこと変化し なかったことなど、現在の歴史学やジェンダー論へ の反省的な見直しから浮かび上がってくる近代日本 のファッション文化を再考する。
2. 戦後日本のファッション	単	2018年2月19 日	京都服飾文化研究財団 にて発表	日本のファッション史における継続と断絶、神話化 と神話作用についての解説。 「鹿鳴館以降、洋装化（衣服の近代化）が始まった 。」「白木屋の火災で洋装が広まった。」「第二次 世界大戦によって、洋装化が中断した。」「アン アン」によって、衣服は作るものから買うものに変 わった。」「1980年代における日本の「ファッ ション革命」は、劇的に世界のファッションを変えて しまった。」(Valerie Steele)」といった神話を 、一つ一つ解きほぐしていく必要がある。
3. ファッションって？ 一服につい て、学ぼうー	共	2017年11月0 3日	ロームシアター京都 バ ークプラザ	「これからの時代、どのように“ファッション”と付 き合っていけば良いのでしょうか——。  ゲストに井上雅人さん、蘆田裕史さん、藤井美代子 さんをお招きし、 これからのファッションについてお話ししていただ きます。  異なる特色を持つブランドをご紹介します、その特徴や 差異から 今の時代の「ファッション」を読み解きます。 また若手ブランドのアイテムを扱うセレクトショッ プをやっていくことの意味、 ファッション業界に携わることに希望はあるのかな どなど。 様々な視点からお話いただきます。」 (京都岡崎蔦屋書店webサイトより)
4. 嗜好品とモダンデザイン	単	2017年07月0 8日	嗜好品文化研究会	ウィリアム・モリスからはじまり、バウハウスで完 成するとされる「モダンデザイン（思想）」と、そ れへの反発である「反近代」としての「ポストモダ ン」という視点で、近代のものづくりを考えて行く ことには無理が出てきている。「嗜好品」という切 り口からだと、新しいデザイン史が見えてくる。
5. 図鑑デザイン全史	共	2017年07月0 6日	東京書籍	Design: The Definitive Visual History(DK)の翻訳
6. 戦後70年の軌跡 戦後日本のファ ッションと民主主義	単	2015年08月3 0日	朝日カルチャーセンタ ー 新宿教室	日本では洋装化が、大衆化のプロセスの中で起こっ た。もちろん、戦前には上流階級における洋服の文 化があり、和服においては百貨店やメディアがから んだ高度な消費社会的なかけひきはあった。しかし 、総動員体制における徹底した身体の平等化と、戦 後に占領軍が持ち込んだ「民主化」という概念の、 具体的な解釈の形として、現在の日本のファッション はスタートしている。「大衆」や「中流」という 、のっぺりと漠然とした層にむけてファッションが 作られてきたということは、この社会の性格を見事 に反映している。「ファッション」と「民主主義」 から、戦後日本の社会を読み解く。
7. 「ファッションを考える：ショッ プ」	共	2015年05月2 4日	gallery110	「ファッションと場」について考えることを目的と したレ連続トークイベントの第1回。 登壇者：成実弘至・井上雅人・蘆田裕史
8. 剣持勇の世界	単	2015年05月1 6日	同志社大学今出川キャン パス至誠館5階共同研 究室	第6回デザイン史研究会
9. 長沢節 洋裁文化のアイコン	単	2014年10月1 1日	Think of Fashion 021	長沢節は、戦後の日本を代表するスタイル画家であ り、華やいだ少女たちを描いた中原淳一と対照的に 、色気のある大人の女性と、線の細い男性を描いた 。スタイル画は、現在ではデザイン画と混同されて しまうが、写真印刷が不鮮明な時代にあって、写真 以上にコレクションの興奮を伝えることのできる、 時代特有のメディアであった。長沢は、「長沢はひ とりでいい」と言われるくらい模倣され賞賛された 時代の寵児であった。しかし、あまり注目されるこ とは無いが、長沢はスタイル画家以上に、当時のフ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
10. 「Future Beauty」展を語る	共	2014年05月04日	gallery110	ファッション界におけるプロデューサーとして活躍した。セツ・モードセミナーを創立して多くの学生を教えただけでなく、日本発のモードや既製服開発の中心となり、『an・an』などファッション雑誌の創刊に深く関わった。はたして長沢を節点として、いかなるものたちが交叉したのか。戦後日本のファッションを考える。 京都国立近代美術館で開催の「Future Beauty」展についてのトークイベント。 展覧会の主催者である京都服飾文化研究財団にも所属する石関を中心に、座談会形式で展示について経緯や裏側を含めて語りあった。 登壇者：石関亮・成実弘至・井上雅人・小北光浩・蘆田裕史
11. 「日本のイタリアファッションについて考える」	共	2014年03月02日	gallery110	「古田賢とイタリアファッション展 ヴェルサーチコレクションを中心に」 2014年2月28日～3月9日、gallery 110におけるヴェルサーチ研究者の古田賢によるイタリアファッションコレクションの展示におけるトークイベント。
12. 1960年代のデザイン	単	2013年10月12日	シンポジウム「1960s—メンズ・ファッションの黎明期」 神戸ファッション美術館	
13. デザイン史研究の現況	単	2013年08月23日	帝国ホテルタワー（インペリアルタワー）9階 ・武庫川女子大学東京センター	第4回デザイン史研究会
14. コムデギャルソン論争とアンアン革命 DCブランドブームを考える	単	2013年05月26日	Think of Fashion 008	『アンアン』の1984年9月21日号に、「現代思想界をリードする吉本隆明の「ファッション」という文章が見開きで掲載された。そして、これが掲載された後に、吉本隆明と埴谷雄高の間に「コム・デ・ギャルソン論争」と呼ばれる一連のやりとりがあった。この論争にたいする評価は、非常に低い。「コム・デ・ギャルソン論争」と言いながら、「コム・デ・ギャルソン」に関する議論は、やり取りの最後にならないと出て来ない。しかし85年に起きたこの論争は女性が洋服を作ることから買うことになった時期の、象徴的な事件でもあるのだ。「コム・デ・ギャルソン論争」や「アンアン革命」という言葉を通して、「DCブランドブーム」をもたらした社会について考える。
15. ファッションの外野が自由に語るコムデギャルソン論——研究者編	共	2013年02月06日	心齋橋スタンダードブックストア（大阪）	西谷真理子・蘆田裕史・井上雅人・千葉雅也
16. カベルとは誰か——神戸仕立業はじめ	単	2012年11月12日	「日本の洋装化140周年記念シンポジウム CLOTHING JAPAN 140 日本の洋服の原点」 神戸ファッション美術館	「神戸で初めての洋服店は、神戸開港の翌年、明治2年（1869）イギリス人のカベルが旧居留地（現神戸市役所東遊園地附近）16番館に開業した洋服店」とされている。カベルとは、Philip Samuel Cabeldu のことであるが、実像とは大きくずれている。「カベル」が象徴しているものは何か。
17. Kawaii Zakkaの可能性	共	2012年07月14日	「Kawaii Zakka 展覧会～カワイイとカワイクナイの間～」シンポジウム 中之島デザインミュージアム de sign de	スピーカー 岡田栄造（京都工芸繊維大学准教授）・井上雅人（武庫川女子大学講師） たかぎみ江（ぼむ企画）・多田智美（MUESM・編集者）
18. ファッションの批評について考える	共	2012年03月03日	スタンダードブックストア 心齋橋	ファッション批評誌『fashionista』創刊を記念したトークイベント 登壇者：井上雅人・蘆田裕史・水野大二郎
19. ファッションとアートの現在	共	2010年11月21日	『スティルライフ / CENTER EAST+井上雅人』展シンポジウム 京都造形芸術大学 ギャラリーRAKU	井上雅人/成実弘至/百々 徹/蘆田裕史/石関 亮
20. 「スティルライフ 井上雅人 + CENTER EAST」展		2010年10月	京都造形芸術大学ギャラリーRAKU	CENTER EAST との共作「stilllife」シリーズの展示。
21. アートは地域を救えるか	共	2010年09月06日	西宮ビエンナーレ2010シンポジウム 場所：旧船坂小学校体育館（西宮市山口町船坂2103-2）	○パネラー：藤本由紀夫（「ヴェネツィア・ビエンナーレ」）、中瀬康志（FUJINO国際アートシンポジウム・神奈川）、端聡（CAI現代芸術研究所・札幌）、山重徹夫（中之条ビエンナーレ・群馬）、小野寺優元（国際野外の表現展比企・埼玉）、江上弘（我孫子国際野外美術展・千葉）、中田洋子（琵琶湖ビエンナーレ・滋賀）、松尾寛（銀聲舎・和歌山）、高見沢清隆（六甲ミーツアート・神戸）、西野昌克（有馬温泉路地裏アートプロジェクト）、田中圭一（堺市教育委員会指導主事）、河南誠（丹波篠

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
22. 世界デザイン会議1960再考—WoDe Co 50周年をめぐって—	共	2010年07月17日	デザイン史学研究会 第8回シンポジウム	山まちなみアートフェスティバル)、櫻井淳子(千早赤阪村野外美術展 in 棚田) ○コメンテーター:小吹隆文(美術ライター)、他 ○司会:井上雅人(社会学者・武庫川女子大学専任講師) ○オブザーバー:水野順之(文化・芸術による福武地域振興財団事務局) ○ホスト:藤井達矢(総合ディレクター)、北夙川不可止(舞台公演担当ディレクター) 会 場:津田塾大学 AVセンター1階 榮久庵憲司(インダストリアルデザイナー) 柏木 博(武蔵野美術大学教授・デザイン評論家) 井上雅人(武庫川女子大学講師)井口壽乃(埼玉大学教授・デザイン史学研究会会長)
23. 洋裁文学と映画	単	2007年06月24日	MKCR第4回国際シンポジウム「東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成」	かつて戦後の社会において、洋裁を舞台とした文学と、それを原作とした映画が数多く作られた。というのも、当時の社会には、洋裁家、洋裁師、ドレスメーカーなどと呼ばれた「デザイナー」がどのような存在で、どのような生活をしていたかについて、分かりやすく使いやすい共通のイメージがあったからである。それは、社会のなかで一人生きていく女性というイメージである。
24. ファッションと身体	共	2005年07月	日本経済評論社	ジョアン・アントウィスル著 協同翻訳
25. 関西ファッション史の形成にむけて	単	2004年07月26日	武庫川女子大学中央キャンパス	『関西におけるファッション(衣)文化の形成—裁縫習得及び衣服作りに関する事例発掘を通して—』の研究会
26. 「衣服文化と伝統の創造」	単	2004年02月	国立民族学博物館	国立民族学博物館共同研究『【13】モノに見る生活文化とその時代に関する研究—国立民族学博物館所蔵の大村しげコレクションを通して—』発表
27. 「無駄の効用—揺らぎと遊び—」	共	2004年01月	国立研究開発法人 科学技術振興機構 異分野研究者交流フォーラム	コメンテーターおよび実行委員
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. モノにみる現代日本の生活文化と歴史の発掘とその活用に関する研究	共	2012年度～2015年度	科学研究費 研究分野: 文化人類学・民俗学 研究種目: 基盤研究(C)	研究分担者
2. 最初期テレビCMの学際的研究—ネットワーク配信による研究・教育活用システムの構築	共	2009年度～2011年度	科学研究費 新学術領域研究(研究課題提案型研究費)	研究分担者
3. 現代日本のポピュラーカルチャーの相関分析による成立基盤の実証的研究	共	2009年度～2010年度	科学研究費 研究分野: 芸術学・芸術史・芸術一般 研究種目: 挑戦的萌芽研究	研究分担者
4. 暮らしにおけるモノと人との相互的関係に関する生活文化学的研究	共	2004年度～2006年度	科学研究費 研究分野: 文化人類学・民俗学 研究種目: 基盤研究(B)	研究分担者
<b>学会及び社会における活動等</b>				
年月日	事項			
	日本生活学会			